

岡  
本  
36  
／  
100  
景

甲南大学

CODE プロジェクト

島岡 麻衣

澤田 由貴

## 岡本の公園

### 岡本梅林公園



「梅は岡本、桜は吉野、みかん紀の国、栗丹波」…岡本梅林の名声  
が世に高く聞こえだしたのは、江戸時代の頃からでしょうか。兵庫の里謡にも「梅は岡本、桜は生田、松のよいのは湊川」と唄われ、広く人々に親しまれていた様子  
うかがえます。その後、昭和のはじめ頃からの宅地化に伴い、その姿は失われていきましたが、岡本の梅林をよみがえらせたいとい

う人々の願いは強く、区内各所で梅の植樹が行われ、梅林が整備されました。このように東灘区とゆかりの深い花、梅は、昭和 61 年末には、区の花に選定されました。毎年、梅のつぼみがほころび花咲く季節になると、紅梅、白梅、しだれ梅など、多彩な種類の梅の花と香りが私たちを楽しませてくれます。

水害や宅地化ですたれてしまったかつての梅林をしのんで、昭和 57 年にこの公園が整備されました。楊貴妃、本黄梅のほか、大宰府天満宮から贈られた飛び梅など約 27 種、130本の梅が植えられています。早咲き、遅咲きと種類も豊富にあり、比較的長い期間梅見を楽しむ事ができます。見頃は 2 月中旬～3 月中旬頃です。



<http://www.city.kobe.jp/cityoffice/81/syoukai/ume.html>



阪急岡本駅を北西に徒歩で約10分のところにある岡本梅林公園。天上川を山手側に登っていく途中にあるのがこの石でできた道しるべ。古くからある感じはなく、むしろ最近作られたもののように感じた。それから矢印が指す方向に進んでいくと、思ったよりも道は複雑にできていて簡単に見つけることができなかった。梅の名所ならば観光客も多いはずなのに、その他に看板らしきものは見当たらなかった。地元住民ならば簡単なことかもしれないが、初めてここを訪れる人からすると、逆に不安に感じてしまうかもしれない。それならば一体この道しるべの役割は何なのだろうか。ただのおしゃれ目的に置かれたものなのだろうか。

## 本山街園



山手幹線道路の岡本交差点の一角にある小さなバラ園。1963年の山手幹線道路工事の際に植樹された苗が、バラの名所と言われるほど立派に育ち、現在では地元の人達にとっての街のオアシス的な場所になっている。見頃は5月～6月と10月～11月。満開時期には29種類600株もの見事な花を見ることができる。



アンクル・ウォルター、アンジェラ、アンソニー・メイアン、オリンピック・ファイヤー、クンバヤ、ゴールドシャッツ、サハラ、ザ・マッカートニー・ローズ、サン・ガッデス、ジャルダン・ドゥ・フランス、ステファニー・ドゥ・モナコなどなど、世界各国のバラが植えられており、それぞれちゃんと手入れされている。ここ本山街園は神戸市が管理している、公園として位置づけられている。

山手幹線沿いの交差点の目立つ場所に置かれている銅像。  
色々調べてみたが正式名称をみつけだすことはできなかった。  
単なる本山街園の付属品なのだろうか。ただ、この銅像は震災  
前からあるものであることは確かである。しかし、こんな大通  
りに堂々と置かれている銅像は岡本のシンボルとっていいの  
かもしれない。



## 線路沿いの風景



甲南大学の学生ならほとんど見ることの  
ない光景ではないだろうか。甲南女子大学方  
向の駅横の踏切の風景。この場所から見る山  
手側は少し雰囲気が違うように感じた。



阪急岡本駅を利用する人ならば通学に必ず  
通る高架下。側面はレンガでできており、コケ  
が生えている。普段は気にせず通り過ぎていた  
高架下もじっくりと眺めてみると、趣があるよ  
うにかんじられた。



## 山手側からの風景



普段歩いている岡本の風景も山手側から見るとどこか違う場所にいるように感じる。

# 天上川

東灘区岡本の中心を流れる「天上川」。時折イノシシの親子も顔を出し、昼寝をする姿を見ることができる。水量も少なく石畳の町並みと絶妙にマッチしており、岡本の魅力的なスポットであるといっても過言ではないと思う。



川の横にある喫茶店。昔ながらの雰囲気が漂う。



岡本橋から撮影。  
蔦の生えるカラオケボックスの壁面と、川に向かって伸びる木は、天上川にさわやかな緑の存在を感じさせる。



天上川にかかる橋。背景にそびえるのは六甲山である。

# ある日の岡本駅



## 岡本の石畳

毎日歩く石畳と子豚。イノシシの看板に、カメさんマーク。よくよくあたりを見回しながら歩いてみると、石畳の魅力を引き立たすアイテムがいっぱい。

